

富山・八塚C遺跡

やつづか

所在地 富山県射水郡大島町八塚

調査期間 一九九八年（平10）四月～一月

発掘機関 大島町教育委員会

調査担当者 田中 明・島田修一（富山県埋蔵文化財センター）

遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 中世～近世（鎌倉・室町時代が主体）

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大島町は、県中央部にあたる射水郡の西端部に位置し、その町域は、庄川及びその支流によって形成された沖積平野の扇端部に広がる。当遺跡は、町南西部の八塚地区、南隣する大門町との境界にあり、標高七m前後を測る。

住宅団地造成に先立ち、一九九七年から発掘調査を開始した。確認した遺構は、川・区画溝・井戸・土坑・掘立柱建物である。

出土遺物には、中世土師器、珠洲焼、越中瀬戸焼、近世・近代陶磁器、五輪塔、懸仏、漆塗椀、曲物、下駄などがみられ、その大半が一五世紀～一六世紀のもので占められる。木簡は、調査区のほぼ中央部にあるコ字形を呈する区画溝から出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1)

「愛染坊常住」

227×272×3 061

木簡は折敷に文字を記入したもので、底板の裏面中央に五文字が残る。伴出遺物より一五世紀後半に比定され、その当時「愛染坊」という宗教に関連した建物が存在していたことが考えられる。

9 関係文献

大島町教育委員会『八塚C遺跡 民間分譲宅地造成事業に伴う発掘調査報告(2)』(11000年)

